

第61回 「第1次松江市総合計画」はどこ？

今年9月から、史料編纂課専門調査員として『松江市史』近現代編を担当しています。もともと専攻は日本近代美術史なので、扱う時代は同じですが、史料の分野や量が違います。その幅広さに圧倒され、時に戸惑いつつ勤務しています。

10月のこと、『松江市史』編纂の史料として戦後の「松江市総合計画」6次分を収集することになりました。「総合計画」とは、地方自治体の全ての計画の基本となり、地域の将来像や体制、施策を示す文書です。昭和44年の地方自治法改正により策定が義務付けられました。『松江市年表』（平成元年4月刊）を基本に整理すると、当市では以下のように策定されています。

「松江市総合計画」昭和37年1月

「松江市総合計画基本構想」昭和47年9月

「第3次松江市総合計画」昭和57年6月

「第4次松江市総合計画」平成4年3月

「第5次松江市総合計画」平成13年10月

「松江市総合計画」平成19年9月

収集に当たり、まずは策定の当事者である市の政策企画課に所蔵確認をお願いしました。第2次分以降はすぐに書架で見つかり、無事借用。しかし、第1次分だけが見つかりません。「第1次はなかったけど、こういうのがありました。必要ですか？」と示されたのは、「松江市建設計画基礎調査書」（4分冊、昭和37年発行）および「松江市建設計画基本計画」（昭和39年3月策定）。何だろう、土木関係？名称も刊行年も異なるため、これらは保留としました。



その後、「第1次松江市総合計画」探索の日々が始まりました。すぐ見つかるだろう、という樂觀は裏切られ、市の総務課書庫、昭和36から37年の松江市議会マイクロフィルム、『広報まつえ』にも関連記事なし。島根県の行政資料、県内公立図書館、国立国会図書館、国立公文書館データベースにもなし。策定当時の配布先と思われる松江市商工会議所にも問い合わせましたが所蔵なし。地方史・都市計画等を専門とする民間図書館のデータベースもあたってみましたがヒットせず……。見つからないまま一ヶ月が過ぎました。

調べてみると、昭和37から38年には松江市で様々な変化がありました。37年6月に新市庁舎竣工移転、38年2月に熊野英市長が任期中に急逝、翌月、斎藤強市長就任。この混乱の中で保管分がどこかに紛れてしまったのか、でも

国内に一冊も残ってないなんてこと、あり得る…？

熊野市長存命中に発行された『新修松江市史』（昭和37年12月刊）を開いてみても、「総合計画」の文字はどこにもない。「本当に作ったの？」という疑問さえ湧いてきました。書かれているのは「建設計画」に関する事だけ…って、この名前、どこかで聞いたような。

もしかして、と思い資料を読み直しました。

- ・「松江市総合計画基本構想」（昭和47年9月）→「第2次」とはついていない
- ・『松江市年表』→「昭和三七（一）松江市総合計画策定。松江市建設計画基礎調査書を作成」とあり

ここで再度、政策企画課に連絡し「松江市建設計画基礎調査書」と「松江市建設計画基本計画」を借用。あわせて『広報まつえ』を昭和39年分まで読んで「建設計画」の関連記事を調べてみました。



「建設計画の審議進む／松江市将来の発展と振興をはかるための松江市建設計画は…」(『広報まつえ』No.143、昭和39年2月1日発行)。

これって総合計画そのものでは。つまり、上掲の『松江市年表』の記述は、「松江市総合計画策定にあたり”松江市建設計画基礎調査書を作成」という意味だったのではないのでしょうか。

そして、ここで総合・建設・経済・文教厚生4部門にわたる分厚く綿密な「基礎調査書」をとりまとめ、その上で昭和39年に満を持して策定されたのが、松江市最初の総合計画＝「松江市建設計画基本計画」だったのです。審議会の様子を伝える記事からは、半世紀前の市の意気込みが伝わってきます。その姿は「ALWAYS 三丁目の夕日」の如くキラキラと輝き、今日の眼にはまぶしいほど。



「これによって新市建設の方向が明示され、それに従って計画も漸次実施に移されようし明るい将来に希望をつなぐことが約束されています」（同紙 No.132、昭和38年3月1日発行）。

改めて思えば、昭和44年以前の段階では、自治体の長期計画の名称は「総合計画」に統一されていなかったのではないかと。そして昭和47年の「松江市総合計画基本構想」に「第2次」とつかなかったのは、名称が「建設」「総合」と異なっていたためではないかと。そしておそらく、第3次総合計画作成あたりまでは、職員間で「建設計画」＝「総合計画」というのは暗黙の了解事項であり、当然すぎて成文化する必要もなかったのではないかと。しかし、年月を経て人が入れ替わるにつれ、その単純な事実が見えなくなっていったのではないかと…と推測しています。

「犯人は既に登場している身近な人物である」というのは推理小説のセオリーですが、今回の「第1次松江市総合計画」もまさにその通り。最初から目の前にいたのです。そして、パソコンの検索機能に頼り切っている現代の私は、「総合計画」をキーワードとして各館の蔵書検索をしていたため、なかなか「建設計画」にたどりつけなかったのです。反省しました。先入観にとらわれず、かつ手がかりを冷静に読み込んで犯人（史料）を見つけるアーキビストであらねば、と思いを新たにしたい一ヶ月でした。

なお、「松江市建設計画基本計画」策定当時の史料をお持ちの方、また、当時の詳しい状況等をご存じの方がおられましたら、史料編纂課までご一報いただければ幸甚です。

(平成28年12月28日／史料編纂課村角紀子)